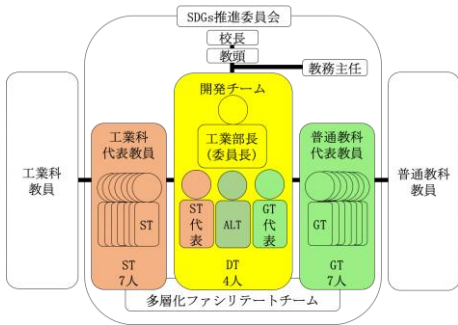


SDGs の取り組みPR

記入日：令和2年6月8日

①タイトル	ホールスクールアプローチによる SDGs の視点を有するグローバル人材育成プロジェクト (H29.4～R2.3)
②関連する ゴール	 ターゲット 4.7 指標 4.7.1(TierⅢ)  ターゲット 12.8 指標 12.8.1(TierⅢ)   
③目的・概要	本活動は、岐阜県立大垣工業高校(以下、本校とする)全生徒・全教職員が SDGs の存在を知り、SDGs の目的を理解し、SDGs の目的達成に資する自律的な活動を促進し、本校生徒を SDGs の視点を有するグローバル人材に育成することを目的とした。 校内組織に内在した学校活性部や SDGs 推進委員会が活動の中心となり、学校・地域住民・地元企業を連携させた、ホールスクールアプローチによる合理的かつ効果的な人材育成プロジェクトであり、本校から毎年 300 人を越える SDGs の視点を有する卒業生の社会への輩出を可能にする取り組みである。 近年、本校は岐阜県教育委員会に採択された県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業(H25～27)、専門高校生国際化推進事業(H29)、専門高校生地域連携推進事業(H30～R1)の三つの研究指定事業を実施した。「グローバル教育」及び「持続可能な開発に関する教育」が本校に導入される契機となる事業であり、平成 29 年度から現在まで持続的に「SDGs の取り組み」が、教育目標の達成に必要な具体的な方策として本校学校経営計画に明記されている。 日本経済団体連合会による SDGs と Society5.0 の関連付け、企業における CSR 活動及び ESG 活動の明確化と促進化、SDGs 活動導入企業の加速度的増加などを鑑みると、7 割以上の生徒が就職を進路選択とする本校において、教育活動に SDGs の視点を導入することは必須である。
④詳細	【取組内容】 平成 28 年度末、本校は岐阜県教育委員会より研究指定事業「平成 29 年度専門高校生国際化推進事業」の採択決定連絡を受け、事業内容の企画立案に着手した。平成 25 年度から継続的に実施されてきたグローバル教育に新たな視点の導入を模索していた本校は、国際交流の活発化に向けたユネスコスクールへの申請作業などを通じて ESD や SDGs の存在を知り、本校の教育活動や教育指導の重点に「持続可能な開発に関する教育」を導入した。ESD 及び SDGs の推進を担う国際理解教育係を含む学校活性部を平成 29 年度に設置し、ESD 及び SDGs に関する研究及び活動を開始した。 令和元年度からは組織開発理論を援用した「SDGs 推進委員会(図 1)」を校内に構築した。本校は生徒定員数 960 人、教職員数 100 名を超える大規模校である。教員組織特有の個業化傾向などの組織的特徴も鑑み、SDGs 推進委員会の内部には工業各学科代表教員チーム ST (Specialized subject Team)・開発チーム DT (Development Team)・普通教科代表教員チーム GT (General subject Team)の 3 つのファシリテートチームを内在し、合理的かつ効果的に活動を進めた。  図 1 大垣工業高校 SDGs 推進委員会構成図 1. 授業における取組 ①平成 29 年度より、1 年生は「情報技術基礎」、2 年生は「コミュニケーション英語」において、生徒各自が SDGs 項目を抽出し、ICT 機器を利用した調査学習で収集した情報をプレゼンテーション資料にまとめ、各クラスでの発表会を実施している。 ②令和元年度より、SDGs 推進委員会 DT のファシリテーションにより、ST 教員・GT 教員による SDGs の視点が導入された授業実践を組織的に促進している。普通教科、専門教科それぞれにおいて多くの授業実践がなされている(写真 1)。

2. 特別活動における取組

①平成 30 年 2 月、SDGs を題材にした「校内プレゼンテーション大会」を実施した。学年集会形式の大会であり、1 年生は「情報技術基礎」から、2 年生は「コミュニケーション英語」からの代表者が発表を行った。平成 31 年 2 月にも同様の事業を実施した。

②平成 30 年度より外部講師として大垣ユネスコ協会 今みどり様を招聘し、本校生徒および教職員の SDGs 認識深化を図る「SDGs 講話」を毎年実施している。平成 30 年度は 2 年生(7 月)、令和元年度は 1 年生(4 月)および 2 年生 (5 月)を対象に実施した。



写真 1 授業実践例

3. 部活動における取組

①平成 29 年 11 月、インターアクト同好会が文化祭において「SDGs スタンプラリー&クイズ」を主催した。本校生徒のみならず保護者など学校外部からの来校者の SDGs に対する認識も深める取り組みであった。

②令和元年 7 月、美術部部員が SDGs 活動啓発ポスターを作成した(図 2)。本校生徒および教職員の SDGs 認識の深化と来校者に対する広報をねらいとした「未来を変える SDGs」、事務部との協働によるエネルギー消費量削減をねらいとした「電気をカットする」が作成され、教室・職員室・廊下に掲示されている。



図 2 SDGs 啓発ポスター

【結果】

多くの教員が目にする場所でのDT会議の実施や、校内においてST・GT教員のSDGsに関する取り組みを頻繁に報告するなど、活動の「見える化」により本校全体に取り組みが周知された。新たに構築したSDGs推進委員会は、本校において組織的な対応により教育目標を実現するための組織として定着し始めた。

令和元年度4月と11月には、SDGs認識状況把握を目的とする質問紙調査を教員および生徒を対象に実施し、本活動を検証した(調査結果データ・統計学的データは省略)。

SDGs を認識する教員数、企業におけるSDGs に関する取り組みを把握する教員数は有意に増加した。また、有意差および有意傾向はみられないものの、教員調査質問4「本校SDGsの取り組みに関わったことがありますか」に対する肯定を示す回答は18 人(調査対象教員中20.9%)から21人(調査対象教員中25.0%)に増加し、質問6「SDGsが導入された授業の経験はありますか」に対する肯定を示す回答の割合は12人(調査対象教員中14.0%)から18人(調査対象教員中21.4%)に増加した。

SDGsを認識する生徒数は1・2年生が有意に増加し、SDGs に関する活動に取り組む生徒数は1年生の増加に有意傾向が見られ、企業におけるSDGsの導入を認識する生徒は2年生において有意に増加した。生徒調査質問7「SDGsに関する取り組みが大切だと思いますか？」に対し、多くの生徒が肯定しており、1・2年生における肯定数の増加が明確であった。しかし、質問8「SDGsの取り組みをしたいと思いますか？」に対する肯定数の大幅な増加には至らなかった。

教員および生徒の変容は、ST・GT 教員の取り組みの活発化、3年連続となるSDGsに関する学年講話の継続実施、SDGsが導入された授業実践の増加、SDGsに関連する掲示物の増加などによるものである。

【連絡先】

岐阜県立大垣工業高等学校(0584-81-1280) 担当：工業部長 田中正一

⑤関連URL	大垣工業高校ホームページ https://school.gifu-net.ed.jp/ogaki-ths/
フリガナ	ギフケンリツオオガキコウギョウコウトウガッコウ
会員名	岐阜県立大垣工業高等学校